

第69回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第69回日本体力医学会大会を下記の通り長崎県長崎市において開催いたします。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第69回大会ホームページ（<http://www.c-linkage.co.jp/tairyoku69/>）をご覧ください。

記

1. 会 期：平成26年9月19日(金)～9月21日(日)
2. 会 場：長崎大学文教キャンパス（長崎市）
3. 大 会 長：管原 正志（長崎大学）
4. 大会事務局：長崎大学文教キャンパス内
〒852-8521 長崎市文教町1-14
E-mail：p fsm69@ml.nagasaki-u.ac.jp
運営事務局：株式会社コンベンションリンクエージ 担当：山下
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-6 第三博多借成ビル
TEL：092-437-4188 FAX：092-437-4182
E-mail：tairyoku69@c-linkage.co.jp
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員でなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

国際セッションのご案内

日本体力医学会では ECSS (European College of Sport Science, ヨーロッパスポーツ科学学会) との間で、国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として、平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています。平成26年長崎県で開催される第69回日本体力医学会大会では、日本、ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です。

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。詳細に関しては第2報でお知らせいたします。

第68回日本体力医学会大会(東京)を終えて



第68回日本体力医学会大会長
東京慈恵会医科大学名誉教授
学校法人慈恵大学理事長

栗原 敏

第68回日本体力医学会は、平成25年9月21日から23日までの3日間、東京都千代田区の日本教育会館、学術総合センター、共立講堂（都民公開講座）で開催されました。この大会には1,944名の方が参加登録しました（うち学生会員535名）。ほかに68名の方が招待参加いたしましたので総参加者は2,012名となりました。発表総演題数は830題で一般演題は657題（一般演題からシンポジウム、ワークショップに組み込んだ89題を除く）でした。口頭発表にはポスター発表にはない長所があると考え、発表は全て口頭発表にしました。発表者の顔が見えること、質疑応答を会場内の出席者が聴くことができることなど、口頭発表の利点を考えてのことでした。

この大会は、公益社団法人東京都医師会、公益社団法人東京都体育協会のご後援を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、大会副会長は勝村俊仁教授、鈴木政登客員教授にお願いし、ご尽力いただきました。実行委員長・事務局長は竹森重教授にお願いし、会場の確保、プログラム編成など学会運営の要職を務め、大会運営を支えて頂きました。また、各種委員会の委員、実行委員には多くの方にご就任頂き、ご尽力下さり、大会長として感謝申し上げます。

会場が分散していたこと、一部の会場は満席で入れないところがあったことなど、参加者にご不便をおかけしたと思いますが、発表内容がよかったことに加え、幸い好天に恵まれましたので、ご容赦頂けたのではないかと思います。

本大会では、一般口演、大会長講演、特別講演、海外招待講演、国際セッション、企画シンポジウム、ワークショップなどに加えて、都民公開講座を開催いたしました。3日間、早朝から遅くまで活発な発表とご討論を頂きありがとうございました。学術研究発表と討論の場である大会としての役割を果たせたと実感しています。また、恒例の持久走大会は、今、人気の皇居一周のコースで行われ、参加者は満足されたのではないのでしょうか。

本大会は、昭和26年の広島で行われた国民体育大会以来、国体開催都道府県で開催される慣例が継承されており、昭和50年に東京で開催されてから、38年ぶりに東京で開催されたこととなります。大会長を務めさせていただき大変光栄でした。

この大会では、(1) 高齢者から競技選手に至るまでの体力、(2) 栄養の問題、(3) 疲労の問題

題を是非取り上げようと考えました。高齢者の体力の低下は生活の質に直接影響し、身体活動度は心身に大きな影響を与えます。また、疾病予防における運動の効果が指摘されています。高齢になると栄養の摂取が不十分で日常生活の質にも大きな影響を及ぼします。東京慈恵会医科大学の創設者・高木兼寛は、明治時代、国民病といわれていた脚気の原因が、栄養の欠陥にあることを指摘し、海軍の兵食を改善して脚気を予防しました。その歴史を踏まえて、栄養の問題を取り上げました。本学会は、体力測定班、疲労研究班、労働衛生班が一緒になって設立されたという経緯があり、疲労は古くて新しい問題です。最近の疲労に関する知見を知り、討論することは、本学会の設立理念にかなうものと考え、疲労をテーマの一つとして取り上げました。新たな視点で疲労研究が進んでいることをご理解いただけたものと思います。

本大会の開催直前に、2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決まりました。1964年の東京オリンピックでは、日本体力医学会の主要なメンバーが、チームドクターとして協力し、メダル獲得につながったと聞いています。2020年のオリンピックに向けて本学会が協力できるよう、研究活動の活性化が図られることを祈念しています。この大会では、体操で数多くの金メダルを取られた監物永三・日本体育大学教授に都民公開講座で、“スポーツの楽しさ、苦しさ、そして喜び”というお話をしていただき、改めてスポーツとは何かを考える良い機会となりました。

最後になりますが、第68回日本体力医学会大会が無事、盛会裏のうちに開催できたのは、関係各位のご協力があったからです。心から感謝申し上げます。また、広告、企業展示、ランチョンセミナーなどにご協力頂いた企業各社、事業団、財団などに対して心から厚く御礼申し上げます。

日本体力医学会定款

一 総 則

第1条 本会は、日本体力医学会（The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine）と称する。

第2条 本会は、事務局を東京都（一般社団法人 学会支援機構内）に置く。

第3条 本会は、評議員会の議決を経て、地方会、支部を置くことができる。

二 目的及び事業

第4条 本会は、体力ならびにスポーツ医学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかることを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術講演会などの開催
- (2) 機関誌（体力科学）、名簿の刊行
- (3) FIMS（Federation Internationale de Medicine Sportive）など、本学会が関係する国際学会の行う事業への参加、協力
- (4) 体力医学の振興ならびに、普及、啓蒙
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会（以下、学会大会と称する）は、国民体育大会の開催地で行われる。

三 会 員

第7条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同する研究者、または団体で、評議員の推薦を必要とする。

第8条 本会の会員を次の5種とする。

- (1) 正会員
- (2) 名誉会員
- (3) 臨時会員
- (4) 賛助会員
- (5) 購読会員

第9条 正会員は、会費年額10,000円を納めるものとする。

正会員ならびに名誉会員は、学会および機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌・名簿の頒布を受けるものとする。

2. 名誉会員は、本会に功労ある会員で評議員会により推挙されたものとする。
3. 臨時会員は、参加費を納入し、学会大会に出席できる。ただし、業績の発表および討論への参加はできない。
4. 賛助会員は、会費年額一口（50,000円）以上を納入し、これを機関誌に公表する。
5. 購読会員は、会費年額12,000円を納入し、機関誌の頒布を受けるものとする。

第10条 会員の入退会、除名は次の各号による。

- (1) 入会しようとするものは、所定の入会届を提出しなければならない。
- (2) 退会しようとするものは、当年度までの会費を完納し、所定の退会届を提出する。
- (3) 会員が、会員としてふさわしくない行為があった場合は、総会の議決を経て除名される。
- (4) 3ヶ年間で会費を滞納した会員は退会とする。
- (5) 死亡、失踪宣言のあった場合は退会とする。

第11条 会費は会計年度内に納入し、既納の会費は返納しない。

四 役 員

第12条 本会には次の役員を置く。

理 事 20名以上25名以内（内、理事長1名、理事長推薦理事5名以内）

監 事 2名

評議員 若干名（内、評議員会長1名）

学会大会長 1名

第13条 役員を選任については次の各号による。

- (1) 理事長は、理事会において理事のうちから選任する。
- (2) 理事20名および監事は、評議員会において評議員のうちから選任する。ただし、理事長は、理事会の議決を経て5名を限度に総務、財務、編集等の業務を担当する理事を任免することができる。
- (3) 評議員会長は、評議員会において評議員から選任する。ただし、理事長が兼務することはできない。
- (4) 新評議員は、評議員の推薦により選考委員会の議を経て、評議員会で決定される。
- (5) 学会大会長は、開催地の評議員、またはこれに準ずる学識経験者のうちから理事会が推薦し、評議員会の議決を経て総会の承認を受け決定される。
- (6) 役員を選出についての細則は別に定める。

第14条 役員に欠員が生じたときは、2ヶ月以内に補欠選挙を行う。ただし、会務に支障を生じない場合には、補欠選挙を行わない。

第15条 理事長は、本会の会務を総理し、本会を代表する。

第16条 理事は、理事会を組織し、この定款に定めるもののほか、本会の総会および評議員会の権限に属した事項以外の全ての事務、およびその他の規則に定める事項を決議し、執行する。

第17条 監事は、本会の財産、業務などの状況を監査する。

第18条 評議員会長は、評議員会を代表する。

第19条 評議員は、評議員会を組織し、この定款およびその他の規則に定める事項について議決するほか、理事会の諮問に応じ、理事長に対し必要と認める事項について助言、または要求をすることができる。

第20条 学会大会長は、学会大会の開催に必要な一切の業務を行い、任期中必要に応じて理事会に出席する。

第21条 役員は、本会の役員としてふさわしくない行為があった場合、または本会の名誉を傷つけ、あるいは本会の目的・趣旨に反する行動があったとき、総会の議決によってこれを解任することができる。

第22条 学会大会長を除く役員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、理事長については、連続3期までとする。

2. 学会大会長の任期は、前回学会大会終了後、前学会大会長より事務引継を受けた時に始まり、学会大会終了後、次回学会大会長に事務引継を行って終了とする。
3. 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
4. 役員は、任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。
5. 役員は無給とする。

第23条 理事会または評議員会は、必要に応じて専門委員会を設け、委員を委嘱することができる。その委員会の代表は、必要に応じ理事会および評議員会に出席し専門事項の審議に参加する。

第24条 本会の事務を処理するため、職員を置くことができる。

2. 職員については、理事会の議決を経て理事長が任免する。
3. 職員は有給とする。

五 会 議

第25条 会議は、総会、評議員会および理事会とする。

第26条 総会は、毎年一回、学会大会開催中に理事長が招集する。

2. 臨時総会は、理事長または監事が必要と認めたとき、招集することができる。

第27条 理事長は、正会員現在数の5分の1以上または評議員会の決議により総会の招集を請求された場合、その請求があった日から1ヶ月以内に臨時総会を招集しなければならない。

第28条 総会の議長は理事長とする。

第29条 総会の招集は少なくとも10日前までに、その日時、場所を会員に通知しなければならない。

第30条 次の事項は総会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業計画および収支予算
 - (2) 事業報告および収支決算
 - (3) 財産目録
 - (4) その他、評議員会において必要と認めた事項
2. (1)の事項について、総会の招集が困難であるときは、理事会において決議することができる。この場合は、次の総会においてその承認を受けなければならない。

第31条 総会の議事は、別に定めがある場合を除き、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

第32条 評議員会は、毎年1回学会大会開催中に評議員会長が招集する。ただし、評議員会長が必要と認めるときは、これを招集することができる。

2. 評議員会長は、評議員現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に招集しなければならない。
3. 評議員会の招集については、第29条を準用する。

第33条 評議員会の議長は、評議員会長とする。

第34条 評議員会は、評議員の過半数以上をもって成立する。ただし、出席できない評議員はあらかじめ書面をもって意志を表示し、または書面をもって委任することができる。この場合、これを出席と見なす。

2. 評議員会の議事は、出席評議員の3分の2以上で決定する。

第35条 理事会は、理事長が招集する。

2. 理事長は、理事現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に理事会を招集しなければならない。
3. 理事会の議長は、理事長とする。
4. 理事会の運用については、第34条を準用する。

第36条 会議においては議事録を作成し、議長および指名された出席者2名以上が署名の上、これを保存する。

2. 会議において議決した事項は、会員に通知する。

六 資産および会計

第37条 本会の資産は次の通りとする。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄付金品
- (5) その他の収入

第38条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に理事長が編成し、理事会及び評議員会の議決ならびに総会の承認を受けなければならない。

2. 事業計画および収支予算を変更した場合、理事会の承認を受けなければならない。

第39条 本会の会計年度は毎年9月1日に始まり翌8月31日に終わる。

七 定款並びに細則の変更

第40条 この定款並びに別に定める施行細則の変更は、総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

八 解 散

第41条 本会の解散は、理事会、評議員会および総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経なければならない。

第42条 本会の解散に伴う残余財産は、理事会、評議員会、総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経て本会の目的と類似した団体に寄付するものとする。

九 補 則

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会、評議員会および総会の議決を経て別に定める。

附 則

1. この定款は、総会において議決された10日目から施行される。
2. 制定、改正年月日

(昭和24年7月2日制定)	(昭和44年10月30日改正)
(昭和59年9月21日改正)	(昭和62年10月7日改正)
(平成9年9月21日改正)	(平成12年9月20日改正)
(平成14年9月28日改正)	(平成17年9月23日改正)
(平成21年9月19日改正)	



体力科学投稿規定

改訂：2012（平成24）年11月9日

I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは実験動物委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記する。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
本文ファイル：Microsoft Office Word
図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。
- H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
 鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛
 [電話FAX 共通 0235-22-3120] E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words, 3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words(5語以内)を付ける。Key words は Medical Subject Headings(国立医学図書館：最新号)を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。
 例1：長島¹⁾によれば……………
 例2：手島と角田²⁾によれば……………
 例3：馬ら³⁾によれば……………
4. 文献表の作り方
 - 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。
 - 2) 雑誌から直接引用する場合
 番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。
 例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011.
 例2：手島貴範, 角田直也：身長の相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011.
 例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011.
 - 3) 単行本から引用する場合
 番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。
 例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.
 - 4) 訳本から引用する場合
 著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。
 例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.



5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

- 例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999.
- 例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006.
- 例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008.
- 例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagosaka M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し、ノートおよび事例報告（症例報告を含む）は原則として刷り上がり4頁以内、図表は2点までとする。

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は、体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題、著者名、所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが、依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

D. 体力科学6号（大会号）の抄録

1. 演題申し込みと同様、学会大会のホームページ上で登録する。

2. 形式、提出日等は大会要項に従う。原稿は一編840字以内とする。

※地方会、大会抄録とも提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。

E. 地方会の抄録

原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。

F. その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）

※Letter to the Editorの項では、本誌に掲載された原著、総説、その他の掲載内容についての質問、疑問、コメント等を編集委員会に寄せ、それに対する回答を執筆者に求め、その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短いが、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

論文の分類

I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
 - I - 1 - a 末梢神経
 - I - 1 - b 中枢神経
 - I - 1 - c 感覚
 - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
 - I - 2 - a 筋生理
 - I - 2 - b 筋生化学
 - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
 - I - 3 - a 呼吸
 - I - 3 - b 心臓
 - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
 - I - 4 - a 血液
 - I - 4 - b 免疫
- I - 5 体液, 内分泌
 - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
 - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代謝
 - I - 6 - a エネルギー代謝
 - I - 6 - b 糖代謝
 - I - 6 - c 蛋白代謝
 - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
 - I - 7 - a 栄養
 - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
 - I - 9 - a 発育発達
 - I - 9 - b 老化
 - I - 9 - c 性差
- I - 10 環境
 - I - 10 - a 温湿度
 - I - 10 - b 気圧, 風圧
 - I - 10 - c 低酸素
 - I - 10 - d 高酸素

- I - 11 トレーニング
 - I - 11 - a 呼吸, 循環
 - I - 11 - b 代謝
 - I - 11 - c 筋骨格系他
 - I - 11 - d 体組成
 - I - 11 - e その他
- I - 12 生活, 健康
 - I - 12 - a 休養, 疲労
 - I - 12 - b 健康管理
 - I - 12 - c 疫学
- I - 13 バイオメカニクス
 - I - 13 - a 力学的情報
 - I - 13 - b 動作分析
 - I - 13 - c その他
- I - 14 遺伝子
 - I - 14 - a 遺伝子多型
 - I - 14 - b 遺伝子制御
 - I - 14 - c その他
- I - 15 その他

II スポーツ医学的研究

- II - 1 スポーツと疾患
 - II - 1 - a 呼吸器疾患
 - II - 1 - b 循環器疾患
 - II - 1 - c 代謝疾患
 - II - 1 - d スポーツ外傷
 - II - 1 - e スポーツ障害
 - II - 1 - f スポーツ歯科
 - II - 1 - g その他の疾患
- II - 2 リハビリテーション, 運動療法
 - II - 2 - a リハビリテーション
 - II - 2 - b 運動療法
- II - 3 薬物, ドーピング
- II - 4 スポーツ心理学
- II - 5 その他



JPFSM : Instructions for Authors

December 15, 2013

*An Official Journal of the Japanese Society of
Physical Fitness and Sports Medicine*

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. For non-native English-speaking authors, please note that only manuscripts that have already been checked and edited by a native English-speaking person with sufficient scientific knowledge will be accepted. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes six types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 or less printed journal pages.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 or less printed pages.
- 3) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 or less printed pages.
- 4) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 or less printed pages.
- 5) **Letter to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors reply are limited to a printed page each.
- 6) **Proceedings:** The Proceedings on the Annual Meeting of this Society will be published in abstract form.

2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) Please submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.

3. SUBMISSION GUIDELINES

The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".
<http://www.editorialmanager.com/jpfsm/>

4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan
E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

5. MANUSCRIPT PREPARATION

1) Cover Letter

The “**Required Submission Form**” should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author’s name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author’s name and address should be written in Japanese as well as English.

Please insert supporting documents such as a copy of the approval letter from the ethics committee, certificate of editing by a qualified native speaker, etc.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

2) Manuscript

Please use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

(1) Title page The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). Please indicate the corresponding author’s e-mail address in the footnote. An asterisk(*) should be added to the right of the corresponding author’s name.

(2) Abstract and Keywords Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese.

(3) Main text The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, you will requested to formally submit your paper in electronic format.

6. MANUSCRIPT FORM

1) Affiliations When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript *1, 2, 3...* placed after each author’s name and before each affiliation.



Examples for describing affiliations and mailing addresses:

¹ *Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

² *Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

³ *Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan*

⁴ *Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan*

2) Abbreviations Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Please limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD₅₀, FAD, FMN, GMP, P450, etc.

3) Units The following units should be used: length (m, cm, mm, μ m, nm), mass (kg, g, mg, μ g, ng, pg, mol, mmol, μ mol, nmol), volume (l, ml, μ l), time (s, min, h, d), temperature ($^{\circ}$ C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μ g/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

4) Nomenclature The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

5) Tables Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend etc. under the table.

6) Figures Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading "Figure Legend".

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author's name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

7) References References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text.

Examples of references are as follows:

- 1) Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111.
- 2) Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247.
- 3) Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K and Imaizumi K. 2008. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 -, and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400.
- 4) Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagosaka M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.
- 5) Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese).

7. ETHICS

- 1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) and/or the ethical standards for clinical research (<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html#4>), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese government’s “Ethical Standards for Human Genome and Genetic Analysis Research” (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate ethics committee of an institution will be accepted for publication. Finally, please clearly state in the manuscript that the study was performed according to these guidelines and attach to the cover letter a scanned certificate from the ethics committee.
- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. Finally, please state clearly within the manuscript which guidelines were followed and that the study was indeed conducted in accordance with the guidelines.

8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	3,000	15,000
Short Communication	3,000	15,000
Review (submitted)	3,000	15,000
Short Review (submitted)	3,000	15,000
Letter to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

Categories covered

- | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system | 2 Motor control | 3 Musculoskeletal system |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology | 6 Humor and endocrinology |
| 7 Metabolism | 8 Nutrition and digestion | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference | 11 Environmental physiology | 12 Exercise-training |
| 13 Lifestyle and health | 14 Biomechanics | 15 Genes and gene regulation |
| 16 Sports Medicine and diseases | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping |
| 19 Sports psychology | 20 Miscellaneous | |

ご 案 内

〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,600円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jspfsm/	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jpfsm/	「JPFSM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFSM」 投稿規定はHP参照のこと

〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒069-8511 北海道江別市文京台23番地
北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科
水野 眞佐夫・小田 史郎
TEL : 011(387)3688 (FAX共通)
E-mail : os@hokusho-u.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1
福島大学人間発達文化学類
安田 俊広 (事務局長)
TEL : 024(548)8209 (FAX共通)
E-mail : yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 関東地方会 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
聖マリアンナ医科大学生理学教室
吉岡 利忠・小林 康孝(帝京平成大学)
TEL : 044(977)3915 (FAX共通)
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学生命科学・体育
田村 暢熙 (事務局長: 中川 明彦)
TEL : 076(286)2211 FAX : 076(218)8090
E-mail : tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12
愛知学院大学心身科学部健康科学科
佐藤 祐造・水藤 弘吏
TEL : 0561(73)1111 FAX : 0561(73)1142
E-mail : satoy@dpc.agu.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野
藤本 繁夫
TEL : 06(6645)3790 FAX : 06(6646)6067
E-mail : sfujimoto@med.osaka-cu.ac.jp
- 中国・四国地方会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)
TEL : 086(462)1111 (内線 54041, 54835)
FAX : 086(464)1109
E-mail : jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp
URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/sports/jspfsm-chushi/>

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel : +617 355 6970
Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

日本体力医学会定例理事会（2013年9月）議事録

日 時：2013年9月20日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：学術総合センター 特別会議室102

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一，荒尾 孝，碓井外幸，大野 誠，
小野寺昇，勝村俊仁，川久保清，川原 貴，
栗原 敏，坂本静男，定本朋子，鈴木政登，
武政 徹，竹森 重，田畑 泉，永富良一，
西平賀昭，福永哲夫，山内秀樹，
吉岡利忠各理事，小林康孝監事，
管原正志（第69回大会長・長崎），
田井村明博（第69回副大会長・長崎），
中垣内真樹（第69回実行委員長・長崎），
大森 肇（プロジェクト研究委員会副委員長）

欠席者：下村吉治，田中喜代次，田中宏暁，浜岡隆文，
福林 徹各理事，能勢 博監事

はじめに第69回長崎大会の田井村副大会長，中垣内実行委員長より挨拶をいただいた。

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い，訂正等がある場合は申し出て頂くこととし，理事会終了後に承認とすることとした。また，議事録署名人として碓井，大野両理事が指名された。

2. 2013年度庶務報告に関する件（小野寺総務委員長）

2013年8月31日現在，会員総数4,979名，新入会員364名，退会者481名（内自然退会258名）であるとの報告がなされた。また，3年以上会費未納者リストが提示され，評議員を除く3年以上会費未納者を自然退会とすることが承認された（3年以上会費未納者の評議員には再度督促を行うこととした）。

3. 2013年度会計（決算）に関する件（勝村財務委員長）

収入の部 予算に比べて団体購読料収入が約76万円増収，雑収入が約93万円増収（名簿作成費用の残金）となり，年度内収入は50,222,288円であった。

支出の部 学会誌要不要のアンケートを実施し印刷部数を削減できた影響により，予算より事業費が約266万円削減し，臨時理事会開催に伴う旅費・交通費の増加のため，管理費が予算より約77万円超過し，その結果，全体の支出が予算額より約270万円削減して，年度内支出としては60,259,283円であった。

以上により当年度収支としては約1,004万円の赤字となり，次年度繰越金は52,460,800円になったとの報告があった。引き続き小林監事より監査報告が行われ，2013年度決算が承認された。

4. 2014年度会計（予算案）に関する件（勝村財務委員長）

2014年度予算案が提示され，次年度予算と大きく異なる点として，下記の項目について説明が行われた。

- ・学術連合会費…今まで予備費で計上していた科目を新たに新設した旨の説明がされた。
 - ・日本医学会会費…日本医学会から会費が請求されることになったため，科目を新設し55万円を計上した旨の説明がされた。
 - ・男女共同参画学協会連絡会会費…平成26年度より新たに入会する男女共同参画学協会連絡会の会費を新たに新設し，2万円を計上した旨の説明がされた。
 - ・法人化関係費…法人化に伴う諸費用として25万円計上した旨の説明がされた。
 - ・商標登録関係費…日本体力医学会健康科学アドバイザーの商標登録に係る諸費用として25万円計上した旨の説明がされた。
 - ・HPリニューアル費…学会HPを新たに刷新する更新費用として80万円計上した旨の説明がされた。
- また，それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し，2014年度の当期収支としては480万円の赤字となる旨の説明があり，審議の結果，2014年度予算が承認された（収入合計50,750,000円，支出合計55,550,000円の予定）。

5. 評議員推薦に関する件（吉岡委員長）

評議員選考委員会において申請者43名に対しての資格審査を行い，その結果43名全員が資格を有すると認めた旨の報告があり，2013年度評議員候補者として43名（内，女性14名）を評議員会に推薦することが承認された。

6. 第24回スポーツ医学研修会修了試験結果について（碓井称号委員長）

研修会を受講した参加者の内25名が8月11日に修了試験（試験問題50問）を受け，23名が合格（2名不合格）した旨と試験の概要について報告がなされ，承認された。

7. 2013年度日本体力医学会健康科学アドバイザー新規称号認定者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザーの新規申請者8名の氏名リストが提示され，承認された。

8. 2013年度日本体力医学会健康科学アドバイザー称号継続申請者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号継続申請者28名の氏名リスト（前回理事会で報告した24名含む）が提示され，承認された。

9. 2013年度日本体力医学会健康科学アドバイザー終身称号授与対象者について（碓井称号委員長）

前回7月の理事会で承認された，今後一切の更新手続きが不要となる日本体力医学会健康科学アドバイザー終身称号授与対象者のリスト32名が提示され，承認された。

10. 学会賞選考委員会委員について（小野寺総務委員長）

今年度で学会賞選考委員の半数の6名が交代となるため、次期委員名簿案が提示され、承認された。(新委員長：竹森重理事)

11. 学会賞授与規定・学会賞選定のための内規について (小野寺総務委員長)

学会賞選考委員の任期は現状6年であるが、任期が長いので、これを4年にしてはどうかとの提案があり、審議の結果、承認された。また、学会賞選考委員長の任期についても3年から2年にしてはどうかとの提案があり、承認された。

また、現状の委員の任期については残り3年あるが、次回理事会にて本理事会で承認された規定に合わせるため、1年間委員の任期を短くする文面を作成し、提出することとなった。

12. 和歌山大会について (小野寺総務委員長)

総務委員会より第70回和歌山大会の大会長候補者として、「田島文博先生(和歌山県立医科大学・教授)」を推薦したいと提案がなされ、理事会として第70回大会長候補者として総会で推薦する旨、承認された。

13. 中富健康科学振興賞の推薦者について (小野寺総務委員長)

前回理事会で継続審議となった、中富健康科学振興賞の推薦者について名誉会員一覧の資料が提出された。理事会で議論した結果、宇佐美暢久先生(名誉会員)を推薦することが承認された。

また、総務委員会から「候補者推薦に関する申し合わせ」が提出され、次回推薦依頼があった時は、本申し合わせを元に候補者を検討するということが承認された。

14. 定款(案)・細則(案)について (小野寺総務委員長)

前回までの理事会で継続して議論してきた定款(案)・細則(案)の成案が提出された。議論の結果、本成案の定款(案)・細則(案)を評議員会・総会に提出し、審議にかけることが承認された。

また、前回理事会で提出依頼のあった役員任期のガントチャートが提出され、現役員の任期を確認した。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会 (小野寺委員長)

- ・秩父宮記念スポーツ医・科学賞選考委員会委員の推薦依頼があり、例年理事長を推薦しているの下光理事長を推薦した旨、報告がなされた。

2) 編集委員会 (鈴木委員長)

- ・今まで無料で利用していたJ-STAGEの投稿審査システムの利用が有料になる旨、報告がなされた。年間の負担する費用は会員数によって変動するが、本学会の場合、15万円～30万円になるとの報告がなされた。
- ・昨年の12月1日にPubMedへ申請を行ったが、各種声明文が揃っていなかったため、申請が受理されなかったが、9月13日にHP上に各種声明文を

公開し、再度PubMedへ申請を行ったとの報告がなされた。

- ・JPFMS投稿審査における問題点が挙げられた。査読の時間が掛かりすぎている場合がある点、査読者の力量が低い方がいる点、ネイティブチェックを受けている論文に対しての事細かな英語の指摘をする点等、報告がなされた。
- ・投稿者からの査読者の推薦・非推薦をしてはどうかとの提案がなされ、議論した結果、査読者の推薦・非推薦ができるようにすることが、承認された。

3) 学術委員会 (碓井委員長)

・スポーツ医学研修会実行委員会 (山内委員長)

第24回スポーツ医学研修会の基礎コースを7月5日、6日(参加者28名)、応用コースを8月9日、10日(参加者27名)を行い、また11日に修了試験(受験者25名)を行ったとの報告がなされた。

・称号委員会 (碓井委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザーの更新時期が分からないと会員からの声を受け、大会期間中の掲示板に更新対象者の名前を載せる案が提案され、次期大会長・大会事務局長に相談し、掲載の許可を得る手続きをしていくとの報告がなされた。

・プロジェクト研究委員会 (大森副委員長)

会員が約5,000人いるのに対してプロジェクト研究の採択件数が1件は少ないのではないかと、他施設との共同研究が条件となっているが、そこを見直すべきか、何らかの研究業績を3年間で提示するというのは期間が不十分ではないかと、研究テーマを3つに絞って募集を行っているが、テーマ自体の見直しを行うべきではないかと、採択された研究の報告・発表方法を見直すべきではないかと、委員会で議論がなされ、今後話を詰めていくとの報告がなされた。

4) 渉外委員会 (永富委員長)

・ACSM

第61回ACSM年次集会の参加助成制度に、5名の大学院生からの応募があり、3名を採択したとの報告がなされた。ACSMメンバーであるEIM(Exercise is Medicine)への参加あるいは、日本におけるEIM開催について協議を開始することとなった旨、報告がなされた。東京大会にて学術委員会企画シンポジウムにACSMの資格制度責任者Richard Cotton氏を招集した旨、報告がなされた。

・ECSS

第18回ECSS年次集会に日本体力医学会から2名のシンポジストが参加した旨、報告がなされた。ECSS理事会にて、来年度以降の交流シンポジウムについて意見交換を行い、ECSSからは「テーマ」「演者」を早く決めてほしいということと、EJSSへの投稿・アクセス・評議員がいないため、積極的に関わって欲しいということと、若手の招待については今後も続けてほしいとの要望があり、日本体力医学会からは交流にふさわしいテーマの選定と、交流シンポジウムの企画に際してECSS側からの積極的な意見がほしいことを要望した旨、報告がなされた。来年度の交流事業として、テ

マ「日本と欧州の身体活動基準とその文化的背景について」、演者は公募ではなく、それぞれからの推薦とすることが決まった旨、報告がなされた。ECSS/EJSSへのリンクをJSPFSM Websiteに掲載することが決まった旨、報告がなされた。

- ・ISPAH (International Society for Physical Activity and Health)

東京大会（海外招待講演）にお越しいただくフィーナ・ブル先生の謝金・旅費を海外交流準備金から支出する旨、大会期間中にISPAHについて打合せを行う予定であるとの報告がなされた。また、次回ISPAHはリオデジャネイロで開催し、その次以降の開催地は未定、日本での開催も先方から打診されているが、費用の面もあるため、慎重に検討を行っていくとの報告がなされた。

- ・国内連携

第64回日本体育学会大会において、体育系学術連合と日本体育学会との共催シンポジウム「これからの時代に求められている体育・スポーツ・健康関連諸科学の社会的使命とは何か」に学会員が参加、国の教育や健康施策に関わるためにさらに積極的な関与が必要という認識を共有した旨、報告がなされた。日本臨床スポーツ医学会との連携は現在検討中である旨、報告がなされた。

- 5) 倫理委員会 (坂本委員長)

- ・各種倫理・利益相反に関する声明文を和文・英文

ともにHPに公開した旨、報告がなされた。

- 6) 広報委員会 (武政委員長)

- ・学会HPのリニューアルを進めている旨、報告がなされた。

- 7) ガイドライン検討委員会 (川久保委員長)

- ・禁煙宣言を作成中であるとの報告がなされた。

- 8) 男女共同参画推進委員会 (田畑委員長)

- ・女性の会員・評議員を増やすため、声掛けをしていきたいとの報告がなされた。

- 9) 地方会 (小野寺総務委員長)

- ・学会誌への投稿は非会員でも認めているので、地方会で発表した非会員の方の抄録についても採用していただけないかとの提案があり、全体との整合性を取る面を考え、採用することが承認された。

2. 第69回大会 (長崎) について (菅原第69回大会長)

長崎大会のポスターが完成したとの報告があり、資料として提出された。

大会のホームページを10月中旬頃に公開予定であるとの報告がなされた。

会期：2014年9月19日(金) - 21日(日)

会場：長崎大学文教キャンパス

3. その他

- ・栗原第68回大会長より挨拶をいただいた。

日本体力医学会評議員会・総会 (2013年9月) 議事録

日 時：2013年9月22日(日)

午後1時10分～午後2時10分

場 所：日本教育会館 A会場 (メイン会場)

総会議長：下光輝一理事長

評議員会議長：福永哲夫評議員会長

議事に先立ち、下記の項目について報告・承認が行われた。

- ・栗原大会長より、挨拶と第68回大会概要の報告が行われた。
- ・評議員会は委任状を含む参加者数が評議員の半数を超えており、成立することが確認された。

【審議事項】

1. 2013年度庶務報告に関する件 (小野寺総務委員長)

- 1) 会員総数4,979名 (2013年8月31日現在)

名誉会員 31名

正会員 4,753名

外国会員 22名

購読会員 168団体

賛助会員 5団体

(財)石本記念デサントスポーツ科学振興財団、

鶴岡印刷(株)、(株)ブルボン、(財)明治安田厚生事業団、

大正製薬(株)

- 2) 役員数

評議員 519名

(内) 理事 25名

監事 2名

- 3) 年度内入退会状況

新入会員 364名

退会者 481名

(内)申込者 223名

自然退会 258名

2. 2013年度会計(決算)に関する件(勝村財務委員長)

以下のとおり2013年度決算についての報告がなされた。

収入の部 予算に比べて団体購読料収入が約76万円増収、雑収入が約93万円増収(名簿作成費用の残金)となり、年度内収入は50,222,288円であった。

支出の部 事業費が学会誌要不要のアンケートを実施し印刷部数を削減できた影響により、予算より約266万円削減し、管理費が臨時理事会開催に伴う旅費・交通費の増加のため、予算より約77万円超過し、その結果、全体の支出が予算額より約270万円削減して、年度内支出としては60,259,283円であった。

以上により当年度収支としては約1,004万円の赤字となり、次年度繰越金は52,460,800円になったとの報告があった。引き続き能勢監事より監査報告が行われ、2013年度決算が承認された。

3. 2014年度会計(予算案)に関する件(勝村財務委員長)

2013年度予算案が提示され、次年度予算と大きく異なる点として、下記の項目について説明が行われた。

- ・学術連合会費…今まで予備費で計上していた科目を新たに新設した旨の説明がされた。
- ・日本医学会会費…日本医学会から会費が請求されることになったため、科目を新設し55万円を計上した旨の説明がされた。
- ・男女共同参画学協会連絡会会費…平成26年度より新たに入会する男女共同参画学協会連絡会の会費を新たに新設し、2万円を計上した旨の説明がされた。
- ・法人化関係費…法人化に伴う諸費用として25万円計上した旨の説明がされた。
- ・商標登録関係費…日本体力医学会健康科学アドバイザーの商標登録に係る諸費用として25万円計上した旨の説明がされた。
- ・HPリニューアル費…学会HPを新たに刷新する更新費用として80万円計上した旨の説明がされた。

また、それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し、2014年度の当期収支としては480万円の赤字となる旨の説明があり、審議の結果、2014年度予算が承認された(収入合計50,750,000円、支出合計55,550,000円の予定)。

4. 評議員推薦に関する件(福永評議員会長)

2013年度評議員推薦に関しては43名の推薦があり、評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い、その結果43名全員について評議員資格を有するとの報告に基づき、承認された。

新評議員(43名)

石井 千恵	石渡 貴之	今永 一成
内丸 仁	大槻 曜生	小熊 祐子
小野くみ子	麻見 直美	小山 薫
加藤 晴康	上濱 龍也	木崎 節子
木村 典代	小林 裕幸	小林 正利
笹原千穂子	佐藤 耕平	沢井 史穂
柴田 愛	鈴木 正敏	関根 紀子
田井中幸司	田口 素子	田中 千晶
田村 好史	辻川比呂斗	寺田 新
長崎 浩爾	中里 浩一	永澤 健
長澤 吉則	夏井 裕明	八田 有洋
林 直亨	桧垣 靖樹	東浦 拓郎
船瀬 広三	堀田 典生	増田 卓
松生 香里	松尾 知明	八木 康夫
山次 俊介		

5. 第69回日本体力医学会大会(長崎)開催について(小野寺総務委員長)

理事会から第69回(長崎)大会長候補として菅原正志会員(長崎大学教授)が推薦され、全会一致で承認された。引き続き田井村明博大会事務局長・中垣内真樹大会実行委員長の挨拶が行われた。

会期: 2014年9月19日(金) - 21日(日)

会場: 長崎大学文教キャンパス

6. 第70回日本体力医学会大会(和歌山)開催について(小野寺総務委員長)

理事会から第70回(和歌山)大会長候補として田島文博会員(和歌山県立医科大学教授)が推薦され、全会一致で承認された。引き続き田島文博大会長の挨拶が行われた。

また、第69回大会(長崎)以降の大会開催予定の案内がなされた。

7. 第71回日本体力医学会大会(岩手)開催について(小野寺総務委員長)

理事会から第71回(岩手)大会長候補として立身政信会員(岩手大学教授)が推薦され、全会一致で承認された。引き続き立身政信大会長の挨拶が行われた。

会期: 2016年9月2日(金) - 4日(日)

会場: マリオス, アイーナ

8. 定款改定(案)について(小野寺総務委員長)

法人化移行に伴い、定款(案)・細則(案)の成案が提出され、審議の結果、一般社団法人の定款(案)・細則(案)が承認された。一般社団法人となるのは登記予定日の2014年4月1日から、それまでは継続して任意団体の日本体力医学会であるとの説明がされた。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 学術委員会

① スポーツ医学研修会実行委員会(山内委員長)

今年(第24回)の研修会について下記のとおり報告がされた。

基礎コース 7月5日(金)・6日(土) 受講者28名

応用コース 8月9日(金)・10日(土) 受講者27名

修了試験 8月11日(日) 申込者25名

また、次年度もスポーツ医学研修会を開催する方向で進めている旨の報告がされた。

② 称号委員会(碓井委員長)

・「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の商標登録を行う旨の報告がされた。

・2013年度日本体力医学会健康科学アドバイザー称号認定者(下記)の報告がされた。

・日本体力医学会健康科学アドバイザーの更新を3回行い、4回目の更新対象となる方は今後の更新手続きを一切不要とする、「終身」の枠を設けた旨の報告がされた。

・新規2名(第23回研修会)

大見 武弘 原田 佳代

・新規8名(第24回研修会)

稲垣まりか 姜 永根 工藤 拓馬

小林 美帆 高橋 剛 奈須野 圭

伴 みずほ 吉村 敏子

・継続28名

伊佐地 隆 石井 宏明 石垣 華奈

石山 育朗 伊藤 克則 伊藤 清二

入江三枝子 太田 宣康 大野 政人

大和田裕美 岡 正晃 小山 薫

笠師久美子 上出 杏里 國岡 義広

重川 敬三	清水 智美	関 健
中嶋 孝之	夏井 裕明	畑山 元政
原 哲夫	藤野 雅広	松谷 昌典
三橋 敏武	山口 秀明	山本 直史
山本 好弘		
・終身32名		
新井 恵美	有本 守男	飯塚真佐恵
稲次 潤子	居村 茂幸	碓井 外幸
小野寺 昇	岸川 典明	清岡 智
朽木 勤	倉橋 昌司	蔵原 健之
佐藤美弥子	下川 哲徳	下川 学
鈴木 正敏	玉木 哲朗	足澤 輝夫
照屋 浩司	中島 幸則	長浜 尚史
西岡 広樹	原 英喜	藤沼 宏彰
真野 宜夫	三田 禮造	森田 恭光
安田 晶彦	山崎 省一	後藤 勝正
山田 和彦	山田 佳弘	

③プロジェクト研究委員会（碓井学術委員長）

平成25年度のプロジェクト研究公募へは3件の応募があり、下記の研究が採択された旨の報告がされた。

採択プロジェクト研究：

「児童期から生徒期における身体活動とメンタルヘルスとの関連性の検討」

研究代表者：石井好二郎

（同志社大学スポーツ健康科学部／教授）

2) 編集委員会（鈴木委員長）

- ・JPFSM発行により、昨年PubMedに掲載するよう申請を行ったが、その時に各種声明文（利益相反、インフォームド・コンセント、人権・動物権）の和文・英文がHPに掲載されていないことが原因で、申請が通らなかったが、倫理・総務・編集委員会が合同で各種声明文を作成・HP掲載を行い、改めて今年9月17日にPubMedへ申請を行ったと報告がされた。
- ・平成25年度の体力科学の投稿状況は、昨年9月1日～今年8月31日までで、70編の投稿があり、25編採択、採択率が35.7%と却下率が高いと報告がされた。

- ・平成25年度のJPFSMの投稿状況は、同じく昨年9月1日～今年8月31日までで、34編の投稿があり、7編採択、レビューが非常に多く2年間で150編であると報告がされた。
 - ・評議員の先生方に依頼をしている査読について、査読結果の返却にとっても時間が掛かっているケースが見受けられると報告があり、速やかに査読を行ってほしいと依頼がされた。
- ### 3) 広報委員会（武政委員長）
- ・学会HPのリニューアルを進めており、間もなく公開予定であると報告がされた。
- ### 4) 渉外委員会（永富委員長）
- ・国際交流のACSMの参加助成の応募者数が少なく、今年度は5名の応募で3名の採択であったと報告がされた。また、積極的な応募をしていただきたいことと、公募のアナウンスの仕方を工夫して行っていくと報告がされた。
 - ・ECSSについて、ECSSの要望と日本体力医学会の要望を踏まえて、学会から推薦して派遣するという方向に切り替えると報告があり、来年のアムステルダムで行われるECSSのシンポジウムのテーマは「日本と欧州の身体活動基準とその文化的背景について」、宮地元彦先生を派遣することが決定したと報告がされた。テーマに関しては、会員からも要望を受け付けると依頼がされた。また、ECSSは日本人の参加者がとても多いが、ECSSのHP閲覧がとても少ないことと、ジャーナルのEJSSへの投稿も少ないため、せめて閲覧をしてほしいとの要望を受けたと報告があり、学会HPにECSSのリンクを貼るので、閲覧してほしいと依頼がされた。
 - ・国内との交流については、臨床系の各学会に声を掛けていくとの方向性が報告された。
- ### 5) 倫理委員会・利益相反委員会（坂本委員長）
- ・各種宣言文を作成したので、その宣言に則って、実験・研究発表・論文作成・投稿を行っていただきたいと依頼がされた。
- ### 6) 男女共同参画推進委員会（田畑委員長）
- ・正会員の3割、評議員の1割、理事は1名と、女性会員の割合について報告があり、まだ女性の力が発揮できていないため、的確な先生を評議員に推薦していただきたいと依頼がされた。

2013年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日 時：平成25年9月20日(金) 16:00~17:30

場 所：学術総合センター 2階会議室202・203

出席者：鈴木政登(委員長・和文誌「体力科学」編集委員長)

今泉和彦(副委員長・英文誌「JPFMS」編集委員長)

井上 茂, 勝川史憲, 川上泰雄, 木崎節子,

後藤勝正, 小宮山伴与志, 坂本静男, 竹森 重,

成田和穂, 西牟田守, 八田秀雄, 藤井宣晴,

宮地元彦, 山内秀樹(各委員)

(編集事務局:白幡裕子, 佐藤信之, 田中加奈子)

欠席者：井澤鉄也, 石井直方, 石原昭彦, 内田 直,

下村吉治, 新開省二, 鳥居 俊, 内藤久士,

中澤公孝, 西保 岳, 能勢 博, 藤本繁夫,

水野眞佐夫, 和気秀文, 宇高 潤(各委員)

【審議事項および報告事項】

1. 2012年度第2回編集委員会の議事録(案)が承認された。また、編集委員会規程・体力科学投稿規定について確認がなされた後、それらの内容が承認された。
2. 委員長より学会賞については英文(JPFMS)誌からは原著の掲載論文数が少なかったとの理由により、今年度の選考がなかったとの報告があった。そのため、来年度は創刊号から選考の対象にして欲しい旨の提案があり、了承された。また、学会賞の対象には原著に加えてReviewとShort Reviewも選考対象にすること、および若手(39歳以下)に対する賞を増やすことが提案され、これらの提案を理事会に諮ることで了承された。
3. 2013年8月12日に申請した英文(JPFMS)誌のオンライン投稿審査システムが利用となった場合、JPFMS投稿規定の変更(案)が編集事務局より説明された。また、一部投稿規定の修正が提案され、了承された。
4. 2014年4月よりJ-STAGE投稿審査システム利用が有償化されることが編集事務局より説明され、有償化となってもこのシステムの利用を継続することが承認された。
5. 2013年9月13日に倫理・利益相反に関する宣言文が本学会のHPで公開されたことが編集事務局より説明があった。これを受け、①利益相反に関する声明、②インフォームド・コンセントに関する声明、③人権・動物権に関する声明が揃ったため、MEDLINE(PubMed)への代行申請を(独)科学技術振興機構(JST)に依頼したことが報告された。
6. Web of ScienceによるImpact factorの算出の方法について編集事務局より説明がなされた。引き続き、2014年に各学術雑誌に引用された論文数を2012・2013年に刊行されたJPFMS誌の論文数(計162編)で割ってImpact factorが計算され、その値が2015年のはじめに公表される旨の説明があった。
7. 体力科学誌・JPFMS誌の投稿状況と掲載状況、投稿から審査結果が出るまでの日数についての報告および説明が編集事務局よりなされた。編集委員長より、査読については迅速化を計るためにもEditorは査読者決定を早くして協力していただきたい旨の依頼があった。
8. JPFMS誌の査読の問題点や改善点等が編集委員長より提案されたことを受け、その内容について編集委員長より報告された。併せて、2015年度のReviewおよびShort Reviewの執筆候補者推薦(メ切11月1日)の依頼があった。
9. 非会員の査読依頼については、Editorが事前に承諾を得た上で選出するよう確認された。
10. 最近、体力科学誌の演題分類「I-12-b 健康管理」への投稿が多いことから、負担軽減のために担当編集委員2名が新たに追加された。また、「II-1-e スポーツ傷害」の担当編集委員についても今後検討していくこととなった。
11. 出席委員より、関与した査読者に対し、全ての審査結果および最終的な査読判定結果を報告することが望ましいとの提案がなされた。これを受け、種々議論を行った結果、今後は掲載不可と判定した査読者に対しても最終的な審査結果を報告することとなった。
12. 出席委員より、投稿者からの査読者の推薦・非推薦をしてはどうかとの提案があった。この点については種々議論がなされた。その結果、体力科学誌についてはシステムに入力フォームを追加することとなった。著者と推薦査読者との関係および利益相反等に関わる条件や規約も検討しなければならないことから、今後調整して妥当な提案を行うことで了承された。

第25回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなど実習を主体とした研修会です。メタボリックシンドローム危険因子保持者などを対象とした運動指導等であり、アスリート対象ではありませんのでご注意ください。

尚、平成23年度より新たな講師陣を加え、1)喫煙や環境汚染および加齢による慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)の運動による改善効果の機序や運動処方、2)降圧剤など薬物治療受診者の運動指導の適否、配慮すべき事項など、3)機能性食品と運動療法併用によるメタボリックシンドローム危険因子改善効果など、4)体組成とくに内臓脂肪の意義およびその測定実習、などの内容を加えました。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会の会員でない方も参加できます。また、他の研修会を受講し資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

多数の方のご参加をお待ちしております。尚、実習を行う関係上、各年度の募集人数に制限がありますことをご確認ください。

平成25年12月1日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内秀樹 碓井外幸 鈴木政登 太田真 勝村俊仁 中島幸則 木村雅子

1. 会場

会場は東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室などです。

2. 日時および研修カリキュラム

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学(神経・筋、呼吸、循環、代謝など)や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。ここで学んだことを基盤として、(II)応用コースへと進みます。

平成26年

7月11日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝(水・電解質およびエネルギー代謝)
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環
18:00~	懇親会(会費3000円、参加自由)

7月12日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方(肥満・糖尿病・脂質異常症)
12:10~13:10	昼休み
13:10~17:00	救急救命実習(人体模型を用いた実習)

(II) 応用コース

このコースの講義では、有疾患者または薬物治療中の場合の運動適用の可否や運動指導の実際について学びます。実習では、自転車エルゴメータによる運動負荷試験を行い、それと関連した血液・尿検査結果データを参考に運動

処方を作成する。さらに、高齢者や喫煙習慣保持者の健康を脅かす慢性閉塞性呼吸器疾患を反映する呼吸機能検査、糖尿病性腎症等の腎機能異常の有無を知る尿検査、およびメタボリックシンドローム罹患の上流因子として重要な内臓脂肪蓄積状態を知る体脂肪測定法などを実習します。その他に、テーピングや筋力トレーニング実習なども行われます。

8月1日(金)

9:00~10:30 高血圧およびその他の循環器疾患の運動処方
 10:40~12:10 運動器疾患の運動処方
 12:10~13:10 昼休み
 13:10~17:00 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験、心電図記録、呼吸機能検査、尿検査、体組成測定実習）

8月2日(土)

9:00~12:00 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し、実施させる）
 12:00~13:00 昼休み
 13:00~17:00 テーピングおよび筋力トレーニング実習

8月3日(日)

10:00~12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので、ご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を取得することができます。

修了試験は平成26年8月3日(日) 10:00~12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（最近8カ年400題）正解/解説付（2012年版）」（定価：2,000円+税）がありますので、ご利用下さい。

下記の“9. 申込書送付先および問い合わせ先”へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。

5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース、（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース（基礎コース、応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし、学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し、「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、同実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-18 小石川アーバン4F
 一般社団法人 学会支援機構内
 日本体力医学会スポーツ医学研修会 係
 電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012
 E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第25回日本体力医学会スポーツ医学研修会 仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。（該当する□にレ印をつけてください。）

第25回 基礎コース

第25回 応用コース

試 験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

平成26年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りました。平成26年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

1. プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
2. 平成26年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
 - 1) 特定保健指導(メタボリックシンドローム対策)に関する基礎的研究
 - 2) こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
 - 3) スポーツ科学(体力科学・体力医学)に関する研究
3. 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすること。
4. プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
5. プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
6. プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は原則1件である。
7. プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度

を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成26年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出が望ましい）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

1. 研究代表者名(署名捺印してください)、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
2. 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日
3. 研究課題
4. 研究目的（200字以内）
5. 研究期間（3年以内）
6. 研究計画（200字以内）
7. 研究方法（400字以内）
8. 期待される研究成果（200字以内）
9. 研究費の使途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を記載してください
10. この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

提出先 田中喜代次

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
筑波大学体育系
電話：029-853-2655 Fax：029-853-2986
E-mail：tanaka@taiiku.tsukuba.ac.jp

日本体力医学会 国際交流事業 2014年ヨーロッパスポーツ科学会議交流シンポジウムについて

ECSS理事会との協議の結果、2014年度以降は、あらかじめ決められたテーマに対して体力医学会会員の中からシンポジストを推薦することになりました。2014年度は「健康のための身体活動と運動の指針について」に決定しました。今回は公募を行わず、渉外委員会で協議の結果、国立健康栄養研究所 宮地元彦先生をシンポジストとして推薦することになりました。次々年度以降は、ECSS理事会と早い時期にテーマを協議し、テーマによって理事会推薦・公募いずれか選択することになりますのでご了承ください。

2013年11月29日

日本体力医学会渉外委員会

日本体力医学会 国際交流事業
2014年米国スポーツ医学会 (American College of Sports Medicine: ACSM)
参加助成制度 募集要項

日本体力医学会会員各位

1. 2014年5月27日～5月31日に米国オーランドにおいて第61回ACSMが開催されます。ACSMでは例年多くの日本体力医学会会員が研究成果を報告しています。日本体力医学会では国際交流事業の一環として第61回ACSMにおいて特に優れた研究成果の発表を行う大学院生2名(口頭発表1名, ポスター発表1名)および若手研究者1名(口頭発表)に対して参加を支援する助成金を贈呈することになりました。本会会員若手研究者および大学院生の積極的な応募を期待します。
2. 助成金の応募資格は以下の要件を満たすこととします。
 - (ア) 2014年4月の時点での日本国内の大学院の在籍者(修士(前期)課程・博士(後期)課程・研究生を含む), あるいは日本国内の研究機関・教育機関に所属する35才未満の若手研究者。
 - (イ) 大学院生: 第61回ACSMに口頭発表あるいはポスター発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
 - (ウ) 若手研究者: 第61回ACSMに口頭発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
 - (エ) なおできるだけ多くの会員に機会を提供するために, 過去3年間で本助成制度に採択されている場合, 応募は受け付けますが, 演題審査で同じ評点の場合には過去に採択されていない方を優先します。
3. 助成金制度に応募する会員は, 日本体力医学会会員番号, 生年月日, 氏名, 提出した演題登録内容(タイ

トル・共同演者名・所属, 抄録本文(いずれも英文)), 及び演題応募者に通知される演題採択結果, さらに大学院在籍者は学生証の写しと指導教員の推薦状(A4版1枚程度・書式自由)を2014年2月14日(金)午後5時までに電子メール(推薦状や学生証の写しも含めてできるだけPDFファイルでお送りください)で渉外委員会委員宮下政司(masashi@u-gakugei.ac.jp)宛にお送りください。

4. 採択の可否は, 渉外委員会が組織する推薦委員会で審議を行い2014年3月下旬頃までに決定し, 本人に通知するとともに, 本ホームページ上で発表者氏名と演題名を公表します。
5. 採択者には日本体力医学会より参加支援助成金として若手研究者1名に120,000円を, 大学院生2名にそれぞれ100,000円(口頭発表), 80,000円(ポスター発表)を支給します。
6. 不明な点, 質問は渉外委員宮下政司あるいは委員長永富良一(nagatomi@med.tohoku.ac.jp)までメールでお知らせください。
7. 応募者が発表を行わない場合には助成を取り消すことがあります。なお採択者には2014年6月中旬に報告書を提出していただきます。報告書は体力科学に掲載されることになります。

2013年11月29日

日本体力医学会渉外委員会

平成26年日本体力医学会関東地方会の開催予定

平成26年に開催される関東地方会は, 次の通りです。地方会のご案内および演題募集は, 逐一「体力科学」および「日本体力医学会ホームページ」にてご連絡を申しあげます。また, プログラム案内もでき得る限り「体力科学」の紙面および「日本体力医学会ホームページ」活用を考えております。皆様の演題応募ならびに積極的なご参加をお待ち申し上げます。

第160回日本体力医学会関東地方会

開催日: 平成26年3月8日(土)
 会場: 東京慈恵会医科大学国領キャンパス
 (東京都調布市国領町8-3-1)
 京王線国領駅より徒歩10分または小田急線狛江駅より徒歩25分
 (http://www.jikei.ac.jp/univ/access_2.html)
 [一般演題の締め切り予定: 平成26年1月31日]
 当番幹事: 山内秀樹(東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室)
 TEL 03-3480-1151 内線2445
 yamauchi@jikei.ac.jp

第161回日本体力医学会関東地方会

開催日: 平成26年7月26日(土) 開催予定
 会場: 女子栄養大学駒込キャンパス 予定
 (東京都豊島区駒込3-24-3) JR山手線より徒歩3分
 [一般演題の締め切り予定: 平成26年6月下旬]
 当番幹事: 木村雅子(女子栄養大学統合生理学)
 TEL 049-282-3702 masako@eiyo.ac.jp

第162回日本体力医学会関東地方会

開催日: 平成26年12月20日(土) 開催予定
 会場: 早稲田大学東伏見キャンパス
 (西東京市東伏見2-7-5) 西武新宿線東伏見駅より徒歩1分
 (<http://www.waseda.jp/jp/campus/higashifushimi.html>)
 [一般演題の締め切り予定: 平成26年11月上旬]
 当番幹事: 田口素子(早稲田大学スポーツ科学学術院)
 TEL 04-2947-6778 mtaguchi@waseda.jp

関東地方会事務局

聖マリアンナ医科大学 生理学
 吉岡 利忠
 TEL & FAX 044-977-3915

第18回日本体力医学会東海地方会学術集会開催および演題申込みのご案内

日 時：2014年3月16日(日)

午前9時～午後4時(予定)

会 場：あいち健康の森健康科学総合センター

大会長：津下一代(あいち健康の森健康科学総合センターセンター長)

参加費：一般2,000円，学生1,000円(当日徴収致します)

プログラム

【一般演題発表】

【シンポジウム】

『健康寿命を延ばすために，体力医学は何ができるか?』

コーディネーター：津下一代(あいち健康の森健康科学総合センターセンター長)

◇シンポジスト

「子どもの生活習慣と体力・健康」

山下 晋 (岡崎女子短期大学)

「働き盛り世代における生活習慣病の発症予防と重症化予防」

井本貴之(トヨタ自動車株式会社健康支援センターウエルボ)

「メンタルヘルスに及ぼす運動・身体活動の効果」

原田和弘 (国立長寿医療センター)

「運動実践における整形外科的課題 – スポーツドクターの立場から –」

近藤精司 (至学館大学)

「身体活動と環境」

種田行男 (中京大学)

一般演題申し込み要領：

演題はE-mailでのみ受け付けます。

演者と共同研究者の氏名，所属，抄録(600字以内)をWordで作成し，下記メールアドレス宛に送付してください。メール本文に氏名，連絡先住所と電話番号をご記入下さい。万一，受付確認メールが返信されない場合は事務局までご連絡下さい。なお，一般演題の2題に，「奨励賞」を授与致します。

演題申し込み締め切り日：2014年1月24日(金)

送付先：tairyoku@grp.ahv.pref.aichi.jp

(担当：和田，尾関，佐野)

連絡先：〒470-2101 愛知県知多郡東浦町森岡字源吾山1-1
あいち健康の森健康科学総合センター健康開発部
第18回日本体力医学会東海地方会学術集会事務局
担当 和田昌樹

TEL：0562-82-0233 FAX：0562-82-0228

E-mail：tairyoku@grp.ahv.pref.aichi.jp

第54回 関東整形災害外科学会 –開催のご案内–

会 期：(平成26年)2014年3月28日(金)・29日(土)

会 場：パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい1-1-1)

会 長：別府諸兄(聖マリアンナ医科大学整形外科学講座代表教授)

テーマ：「見て学ぶ整形外科基本手技」

ホームページ：http://www.congre.co.jp/ksot54/

運営事務局：〒102-8481

東京都千代田区麹町5-1

弘済会館ビル 株式会社コングレ内

TEL：03(5216)5318 FAX：03(5216)5552

パネル

1. 見て学ぶ上肢外科基本手技
2. 見て学ぶ脊椎外科基本手技
3. 見て学ぶ足の外科基本手技
4. 見て学ぶ股関節外科基本手技
5. 見て学ぶ膝関節外科基本手技

主題 (発表内に一部ビデオ手技を必ず入れてください)

1. 橈骨遠位端骨折ロックングプレートの功罪
2. 舟状骨偽関節の診断と治療
3. 各部位の超音波診断の現状
4. 化膿性関節炎の治療(直視下VS鏡視下)
5. ハイリスク脊椎手術のマネージメント
6. 骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節の治療
7. 新鮮アキレス腱断裂の治療 –スポーツ復帰を目指して–
8. 踵骨骨折の手術療法 –よりよいQOLのために–
9. FAIに対する股関節鏡視下手術
10. 大腿骨ステム周囲骨折の治療
11. 人工膝関節置換術とスポーツ
12. 前十字靭帯再建術の工夫

特別講演，ハンズオンセミナー，その他

多くの先生方のご参加をお願いいたします。

編 集 後 記

『体力科学』第62巻6号をお届けします。毎年恒例の、体力医学会大会の一般演題抄録と英文誌の抄録が中心となった号となっています。今年の大会は東京の中心での開催ということもあり、多くの一般演題が発表され、会場がいっぱいになるほどの参加者によって活発な討議が行われました。特に、若い方々のエネルギーを随所に感じた大会でした。折しも東京でのオリンピック・パラリンピックの開催が決定した直後で、7年後のわが国の体力・スポーツ医科学の研究や実践を担う会員の方々の熱気を感じることができ、今後の本学会の更なる発展を確

信しました。体力・スポーツ医科学の知見がますます集積され、そのことが、一方ではオリンピック・パラリンピックのメダル数の増加に、他方では依然問題の山積する大震災の被災地における住民の健康レベルの向上といった課題に、積極的に寄与するものとなれど願っています。そのためにも、学会大会での発表をぜひ『体力科学』あるいは英文誌『The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine』にご投稿ください。

川上 泰雄

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.62, No.6

体 力 科 学 第 62 巻 第 6 号

平成 25 年 11 月 25 日 印 刷

平成 25 年 12 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者	鈴 木 政 登
発 行 所	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会
編 集 事 務 局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局 TEL・FAX(共通) 0235-22-3120 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
印 刷 所	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社